

平成 25 年度事業計画

(1) 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

- 1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行
月刊の協会誌として、患者、家族、糖尿病予備群および療養指導者に対する糖尿病の正しい知識の情報提供と啓発を行う。12冊／年発行する。
- 1-2 糖尿病関連書籍の発行
「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行する。
- 1-3 全国糖尿病週間の実施
11月11日から17日の一週間を全国糖尿病週間とし、一般社団法人日本糖尿病学会との共催で、厚生労働省、日本医師会、日本放送協会、日本糖尿病財団、日本歯科医師会の後援を得て、各都道府県糖尿病協会を中心に糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施する。糖尿病週間の標語も公募する。
- 1-4 糖尿病シンポジウム等のイベントの実施
 - ・「糖尿病シンポジウム」を2ヶ所（山梨、山口）で開催するほか、マスコミ（新聞）等の協力を得て糖尿病に関する正しい知識の普及啓発を行う。
 - ・日本糖尿病財団との共催により「糖尿病予防キャンペーン」を高知で開催する。
 - ・企業との共催イベントも実施する。
- 1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施
11月14日「世界糖尿病デー」において、日本糖尿病学会・本協会で構成する世界糖尿病デー実行委員会に協力し、各地での世界糖尿病デーの認知向上と糖尿病知識の普及啓発活動を推進する。
- 1-6 Team Diabetes Japan
国内外のマラソン大会等への参加を通じて、糖尿病予防や治療についての知識啓発を行う。
- 1-7 「DM Ensemble」の発行
糖尿病療養指導者（主に日糖協登録医、歯科医師登録医、コメディカルスタッフ）を対象とし、糖尿病治療の最新情報を提供する「DM Ensemble」を4冊／年発行する。糖尿病療養指導において核となるコメディカルスタッフやかかりつけ医育成に役立つ雑誌を目指す。
- 1-8 登録医・療養指導医・歯科医師登録医制度の展開
日本糖尿病協会登録医・療養指導医制度並びに日本糖尿病協会歯科医師登録医制度について一段と充実化を図ることで、専門医とかかりつけ医、歯科医師との連携強化につなげる。
- 1-9 日糖協 CDE ネットワークの運営
糖尿病チーム医療を支援するため、CDE ネットワークの質・量の拡大を図る。地域糖尿病療養指導士養成団体に補助金を支出し、活動活性化と養成団体の新規設立を支援する。
- 1-10 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した療養指導の普及
IDF が推進する糖尿病教育用ツール「糖尿病カンパセーション・マップ™」の普及を図る。カンパセーション・マップ™を使用して療養指導を行うスタッフを育成するためのファシリテータートレーニングを簡素化し、講習会受講資格の枠を LCDE にも拡大することで、より一層の普及を目指す。フォローアップ講習会をあわせて全国 20 か所程度で展開する。
- 1-11 新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズの普及
ブルーサークルを用いた新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズの普及を図るため、患者・予備群への指導を行う医療スタッフを育成するためのプログラムの実施に向けた検証を行う。
- 1-12 日糖協療養指導学術集会の開催
糖尿病療養指導者の教育と情報交換を行う目的で、全国レベルの療養指導学術集会を開催

する。ディスカッションによる職種間の相互理解を深め、糖尿病療養指導のコンセンサス確立を目指す。

(2) 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

- ・インスリンアナログ混合製剤 1 日 2 回投与あるいは持効型溶解インスリンアナログ製剤 1 日 1 回投与によるインスリン導入の検討
- ・経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究 (UNITE Study)
- ・65 歳以上の高齢者 2 型糖尿病における、シタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性及び安全性に関する比較検討試験 (START-J)
- ・インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討 (前向き観察研究-I-UNITE Study)

2-2 インスリン注入器の仕様共通化および血糖自己測定機器も含めた適切な使用手技の普及に向けた活動

2-3 日本における糖尿病の予防・治療・療養指導に関する研究に対する助成

(3) 糖尿病の患者及び家族に対する療養指導事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

糖尿病教室で使用できる資料の作成など、全国の糖尿病友の会の活動を活性化するための施策を実施し、会員の療養生活や会員相互の交流を支援する。また、友の会活動を核として地域の糖尿病対策にも貢献できる人材育成を目指す。

3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

糖尿病連携手帳、自己管理ノート、ID カード、英文カード等の一層の利用拡大を目指す。また、「インスリンで治す」「糖尿病予防および管理のための栄養と運動」「インスリンポンプ使用者のための CSII ノート」「注射手技ガイド」等の冊子を発行する。

3-3 1 型糖尿病対策

- ・小児糖尿病サマーキャンプの支援
小児 1 型糖尿病患者に正しい治療を習得・実践させるために、小児糖尿病生活指導講習会(サマーキャンプ)に対する支援を行う。
- ・小児糖尿病サマーキャンプカンファレンスの実施
小児糖尿病サマーキャンプの標準化とレベルアップを図るため、全国のキャンプ実施責任者の会議「サマーキャンプカンファレンス」を開催する。
- ・第 12 回全国ヤング DM カンファレンスの開催 (茨城県支部担当)
協会活動における若手の育成や各支部内外における 1 型ヤング活動の活性化と連携を図る。

3-4 小児 2 型糖尿病対策事業

小児 2 型糖尿病および肥満の患児の教育事業の展開を検討する

3-5 インスリンケアサポート事業

小児から大人まで、あらゆる世代の 1 型糖尿病およびインスリン治療中の患者が持つ様々なニーズに対応する。日常生活でのインスリンによる療養から、震災など非常時のリスクマネジメントまで、様々な状況下でのインスリン治療に関する啓発を行う。

(4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF、IDF-WPR

- ・12 月に開催される IDF Congress in Melbourne および IDF-WPR Council Meeting に出席し、日本での糖尿病対策活動を紹介する。
- ・IDF Congress in Melbourne 参加と現地患者会との交流を目的とする患者ツアーを実施

する。IDF-WPR が実施するアジア地域のフットケア事業への協力を行う。

- ・国際糖尿病基金を活用した IDF-WPR、AASD の活動支援、およびアジア地域での調査研究を含めた糖尿病対策の支援を行う。

4-2 AASD

事務局業務、年次学術集会（韓国開催）の支援を行う。

4-3 国際交流研究奨励賞

若手研究者の研究奨励と国際交流を促進する目的で、褒賞を行う。

(5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強

日本糖尿病協会の会員増強の活動を継続推進する。

5-2 他団体との連携

- ・CDEJ および地域の CDE 組織との連携強化

各地で組織されている「地域糖尿病療養指導士」養成団体と連携し、CDE ネットワークによる地域の CDE の育成協力と活動支援を行う。

- ・日本歯科医師会との連携強化

歯科医師登録医制度を拡充するため、日本歯科医師会とのさらなる連携を促進する。

- ・日本糖尿病対策推進会議への協力

日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、国内の糖尿病対策事業を実施する。

- ・日本介護支援専門員協会との連携強化

高齢の糖尿病患者の生活を支援する目的で、日本介護支援専門員協会と協力して介護職に対する糖尿病教育を実施するなど、医療と介護の連携を目指す。

- ・結核予防会との連携

結核予防会と連携して、非感染性疾患（NCD）による社会的な脅威を取り除くことを目標とした国際的な取組である NCD アライアンスの日本国内での推進をはかる。

5-3 災害時危機管理対策

大規模な自然災害などに備える目的で、行政・企業等と連携して危機管理体制を構築する。また、糖尿病患者に対する危機管理の意識付け教育を行う。

5-4 広報事業

- ・日糖協の認知度を向上させ事業効果を高める目的で、マスメディアに対する広報活動を強化する。プレスリリースの発信（10 回程度）やメディアセミナー（4 回程度）等を実施する。

- ・ホームページ、facebook での情報発信

一般市民、糖尿病患者、予備群、医療従事者に対し、糖尿病の正しい知識の啓発を行うとともに、協会事業、入会の案内等の情報を掲載し、日本糖尿病協会の認知度向上を目指す。

その他

その他当協会の目的を果たすために必要な事業を、理事会の承認のもと実施することとする。